

平成27年度第1回山形県図書館協議会議事概要

1 日時 平成27年9月16日(水) 13:30~14:50

2 場所 「遊学館」3階 第2研修室

3 委員長選任

・沼野慈委員を委員長に選任した。

4 議事(委員の発言、質疑等の概要)

(1)「県立図書館の将来のあり方について」に基づく施策の進捗状況等について

[西村委員] 学校図書館との連携について、小中学校は市町村、高校は県と役割分担したようだが、例えば、平成31年度に学校図書館連絡協議会が東北地区学校図書館大会を行う予定であり、そこには小中高が参加する大きな大会となるが、県立図書館からの小中学校への支援も必要と思うが、どうなるのか。

(事務局) 明確に線引きして分けたということではなく、窓口的なものを分担したものであり、できることがあれば小中学校にも必要な支援は行っていく。

例えば、「学校支援のための公共図書館利用のハンドブック」は、小中学校も含めて支援するものである。

[新藤委員] ①図書館大賞とはどのようなものか。

②Wi-Fiの導入を検討しているようだが、最近は多くの公共図書館で設置している。ただし、悪用して、アダルトサイトを観たり、SNSでテロ予告や他人の誹謗中傷がなされる可能性は否定できず、それに対してなかなか有効な対策が取れないので、そのようなリスクがあることを承知してほしい。

③「一箱古本市」は是非やってほしいところだが、どのような形で実施するのか。

(事務局) ①については、県と市町村との連携事業で、謂わば「本屋大賞」の図書館版といったものとして発想したが、図書館として順位をつけることは適切でないなど侃々諤々の議論一県・市町村図書館全体でこんなに議論したこと自体が有意義だったが一があり、二次まで投票してランキングを付けずにある程度まとまった数(30冊程度まで)の本を展示することにした。県及び市町村の図書館(室)の全ての職員が、今回は「秋の夜長にしみじみと味わって読みたい大人の小説」をテーマに明治以降日本語で書かれた小説をそれぞれ投票—二次投票まで行う—で多くの支持があった本を展示する企画である。まず県立図書館で展示し、要望があれば、市町村図書館(室)での移動展示も検討している。

③「一箱古本市」は、山形市内では、ボランティアの実行委員会があって、数年前から山形まなび館で行っているが、12月に予定している「県立図書館クリスマスフェスタ」のイベントの一つとしてこれを誘致したい。

[新藤委員] 図書館員の主張を選書に反映してはいけないと言われ、また「読書の自由」などもあり、図書館大賞については、ランキングはやめて、本の数も多いほうがよい

と思う。新しい試みについては、様々な意見が出てくることも考えられるので、利用者にお勧め本を広くお知らせするというようなスタンスでよいと思う。

[鈴木委員] 開館日の拡大について、用途は立っているのか。

(事務局) 次の議題である県立図書館活性化検討委員会でも説明するが、図書館だけでなく遊学館全体に関わることであり、これから検討することとしているが、もうしばらく時間をいただきたい。

[鈴木委員] 様々なイベント、新たな企画を行っているにもかかわらず、入館者が伸び悩んでいるが原因をどのように考えているか。

(事務局) 確かに4、5年前は入館者が年間で20万人を超えていたが、ここ1、2年かそれを割っている。一般的には、景気がよくなると働く時間や働く人が増え、図書館で時間を過ごす人が少なくなる。逆に景気が悪くなる図書館の利用が増えるという傾向があると考えている。また、県立に限らず、市町村立図書館を含めて言えるのは、近年、各地で子育て支援施設が充実したことにより、家族での利用者がそのような施設にシフトしているのではないかと考えられる。

インターネット予約により来館しなくても最寄りの図書館で貸借できることになっており、インターネット予約件数が26年度は14,000件と前年度の11,000件に比べ大きく伸びており、このような利用者は増えている。

[松田委員] 学芸員の専門職も必要との話が出たが、生涯学習の拠点施設としては当然と考えられるが、採用についてどのように考えているか。

(事務局) 人材の確保については、まずは正職員の司書を拡充し、カウンターの司書をきちんと指導監督できる職員を増やしたいと考えている。全国的には学芸員の資格を持った司書も採用されているが、全体の企画力向上等のため、将来的には必要とも考えられる。

[加藤委員] ①学校図書館で働く人のための基本的なハンドブックを作してほしい。というのは、本来司書資格のない職員が人事異動で専門外の司書として配置されている例が多くあり、外部の研修に行く機会もないのでぜひお願いしたい。

②団体貸出の範囲の拡大について、老人関係施設は、大活字本、写真集の利用やそれを活用した読み聞かせなどの需要が多いと思う。

③「赤ちゃん絵本コーナー」に関連して、赤ちゃん絵本の与え方と選び方、読み聞かせの方法をまとめた小冊子を作成してはどうか。

(事務局) ①については、県内市町村図書館等との集まりの中で検討したい。

②については、老人関係施設だけでなく、病院や子育て関連施設などにも、団体の意向も踏まえながら拡大していきたい。

③については、今後検討したい。

[沼野委員長] 目標となる数値を出したということは「覚悟」であり、達成に向けて努力してもらいたい。その場合、東北各県との比較なども踏まえてほしい。
また、司書の数を増やすということがすぐには難しければ、オフザジョブトレーニングとして外部の研修会を積極的に活用したらよいと思う。

(2) 県立図書館活性化検討委員会の検討状況について

[鈴木委員] 基本構想に「頼れる図書館」とあるが、先ごろ、鎌倉市立図書館の司書が2学期の始まる前に、「学校に行くのが辛ければ図書館においで」とつぶやいて話題になったが、そのような取組みはどうか。

(事務局) 事情はともあれ毎日来館される方がおり、特に中高齢者が多くなっているが、そのような居場所のない方の受け皿となっている。

[加藤委員] 県立図書館は、以前と比べて雰囲気がとても良くなったと感じているが、入口に館内の見取り図、案内図がほしい。

(事務局) 検討する。

[松田委員] 私も雰囲気が良くなったと感じており、図書館を利用するわくわく感がある。教育資料館には文化的価値のあるものもあり、それと文翔館、遊学館を一つのエリアとして結びつけ、イベントなどで活性化を図ってはどうかと思う。

[沼野委員長] 遊学館全体の活性化を心待ちにしている。活性化に当たっては、利用者の満足度調査などで意向を確認してほしい。